広報 九州

平成29年9月10日
（２０１７年）

No　１７４７

九州森林管理局
〒860-0081
熊本市西区京町本丁２－７
IP電話：050-3160-6600（代表）
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/

国民の森林・国有林

屋久島世界遺産地域科学委員会及び ヤクシカ・ワーキンググループ会議を開催

8月1日・2日、今年度第1回目の屋久島世界遺産地域科学委員会及び同委員会の部会であるヤクシカ・ワーキンググループ会議が、屋久島環境文化村センターにおいて開かれました。

冒頭、事務局を代表し環境省九州地方環境事務所の河原武統括自然保護企画官から「屋久島では増加するヤクシカの生態系への影響、山岳部利用のあり方検討などの課題があるが、世界遺産地域の適切な管理に向け科学的知見に基づく助言を賜りたい」と挨拶。

続いて、屋久島町の岩川浩一副町長から「世界自然遺産地域の保全や活動にご尽力頂いていることに感謝する。次世代へ価値が損なわれることなく引き継がれるよう、助言をしっかりと受け止め町政に反映させて参りたい」との挨拶がありました。

委員会での論議内容

委員会では、「平成28年度第2回科学委員会における主な議論の整理」を報告後、屋久島世界遺産地域管理計画の実施状況、各モニタリング調査、ヤクシカ・ワーキンググループでの取り組み状況、山岳部利用のあり方の検討などについて論議がなされました。

主な論議では、国有林から今年度の取り組みとして、宮之浦岳周辺1200㍍～1936㍍地点までの垂直方向の植生モニタリング調査、高層湿原「小花之江河」の一部に植生保護柵の設置、湿原におけるヤクシカの採食の被害状況のモニタリング調査、縄文杉大枝の腐朽に伴う安全対策として設置されていたケーブリングについて、デッキ移設などの安全対策が完了したことからケーブリング撤去、野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備事業の実施、外来植物「アブラギリ」の駆除などについて報告しました。

科学的知見に基づく助言を聴取

委員からは、高層湿原の現状について「ヤクシカの採食、踏み固め、歩道からの土砂の流入などの影響により衰退が進んでいる」「関係行政機関が連携した対応策を検討するなど貴重な高層湿原の保全・管理が必要」などの意見が出されました。

ヤクシカWGへの意見等

その後、矢原徹一座長から前日開かれたヤクシカ・ワーキンググループと特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議の報告があり、委員からは「様々な意見を持った研究者がおり、幅広な意見が反映されるような委員会の構成が必要」などの意見、また、山岳部利用のあり方検討については「世界遺産としての屋久島を念頭においた議論が必要であり、関係機関が連携して取り組むことが必要」などの意見がありました。

その他として、屋久島森林管理署川畑充郎署長から、屋久島の林業集落跡地や軌道跡などが日本森林学会による「林業遺産」に認定された旨の報告、環境省九州地方環境事務所からＩＵＣＮ世界遺産アウトルックの見直しの報告があり、矢原座長から「屋久島においてマダニによるＳＦＴＳの発症事例の報告があり、関係行政機関において情報の共有、発信が必要である」旨の意見がだされました。

挨拶を行う林部長

最後に、九州森林管理局林視計画保全部長から「長時間にわたり、科学的知見に基づく助言をいただき、感謝申し上げる。花之江河など高層湿原の適切な保全・管理、ヤクシカの生態系への影響、山岳部の利用のあり方などについて大変貴重な助言・提案などをいただき、今後も関係行政機関が連携を図りながら対処していくので、引き続きご指導ご助言を賜りたい」との挨拶があり委員会を終了しました。

今後も科学委員会の助言を得ながら屋久島世界遺産地域の貴重な自然環境を適切に保全・管理していくこととしています。

（担当＝計画課）

高校生が国有林について学ぶ

芦北高校林業科2年生が林業実践体験研修

8月2日、当局では、熊本県から地域林業実践体験推進事業の委託を受けた、水俣芦北森林組合からの依頼により、熊本県立芦北高等学校林業科の2年生5人を対象とした林業実践体験研修（※）を行いました。

研修で来局した芦高生（前列５人）

今回は、国有林・九州森林管理局の業務や取り組みなどについて、当局田口護次長、森林整備課松永直人係員及び総務課寺地祐人係員が講師となり研修を行いました。

まず最初に、田口次長より林野庁の組織・業務内容や、当局の重点取組事項としての熊本地震及び九州北部豪雨からの復旧・復興への取り組み、林業の成長産業化に向けた技術開発や、原木の安定供給などの取り組みについて具体的な事例をあげながら話がありました。

田口次長の講義の様子

松永係員からは、森林整備課の業務内容や自身の業務について、先の九州北部豪雨の被害箇所をドローンで撮影した動画を使うなど、分かりやすく説明がありました。

寺地係員からは、総務課の業務や自身の業務内容について、自身の一日のタイムスケジュールを例題にして、勤務内容や時間外の活動まで具体的に話がありました。

講義を受けた生徒たちは、講師の熱のこもった話に真剣に聞き入り、質疑応答の際には「新たな技術開発は進んでいるのか」「A材利用の課題は」「CLTの耐火性は」などの質問が出るなど、森林・林業への関心の高さがうかがえました。

講義終了後に行ったアンケートでは「林野庁の具体的な業務などを知ることができ、森林管理局で働いてみたいと思った」「分かりやすい講義内容で将来の進路が増えた」などの回答があり、この研修生から、将来の国有林野職員が出てくることを期待し、林業実践体験研修を終了しました。

※この研修は、林業を学ぶ生徒に対して、林業を視察・体験する機会を設けることで、林業生産活動の維持増進並びに森林管理の推進に資することを目的として、熊本県が実施しているものです。

松永係員の講義の様子

寺地係員の講義の様子

（担当＝総務課）

鹿大生が治山事業を見学

【鹿児島森林管理署】当署では、鹿児島大学からの依頼を受け、生物環境学科森林科学コースの3年生24人を対象に、桜島地区民有林直轄治山事業の現場において研修を兼ねた見学会を開きました。

まず、湯ノ平展望所において当署杉野隆二次長から、国有林と鹿児島森林管理署の概要、古庄誠司総括治山技術官より、治山事業の内容、桜島地区民有林直轄治山事業の概要について説明を行いまし。

続いて、場所を移動し、引の平上流の円形セルダムではその特徴である①コストの縮減②工期短縮③現地発生剤の有効利用などについて説明を行い、学生からは「上流での今後の計画」「セルダム鋼材の入手先」「完成までの所要期間」などについて質問があり、熱心にメモをとりながら説明に聞き入っていました。

その後、治山施設や周辺の植生の状況を見ながら、八谷沢上流の大正噴火口まで、額に汗しながら歩いて移動し、現地では大正噴火口の規模の大きさに一様に驚いており、身近にある桜島を肌で感じる貴重な一日となりました。

今回の参加者の中から、我が職場を一人でも多く希望されることを期待して帰路につきました。

職員の説明を聞く鹿大生

民有林と国有林が一体的に森林整備を実施

出水市武本地域公益的機能維持増進協定を締結

7月11日、北薩森林管理署会議室において、九州森林管理局長と出水市の民有林所有者3人との間で、公益的機能維持増進協定を締結しました。

この協定は、北薩署管内の出水市武本地域の国有林と隣接する民有地において、国有林の活用型間伐事業と民有林の間伐を一体的に実施するものです。

当日は、局長代理の前田三文北薩森林管理署長と出水市在住の民有林所有者2人、及び局・署の関係者が出席し協定書に調印しました。

その後、局長に代わり前田署長から、公益的機能維持増進協定締結へのお礼や事業の進め方などについて説明があり、調印式を終了しました。

なお、この公益的機能維持増進協定は、2012年の森林法改正により創設された制度であり、民有林と国有林が必要な森林施業を一体的に実施することにより、山地災害の防止や水源のかん養などの公益的機能の維持増進を図ることを目的としています。

当局管内では、13年度に鹿児島森林管理署管内の霧島市国分川内地域と屋久島森林管理署管内の屋久島町永田地域で協定を締結、今回の協定が3番目の協定締結となります。

（担当＝計画課・北薩署）

調印を終えた関係者

県と連携し課題解決

【宮崎北部森林管理署】民国連携の一層の推進を図るべく、宮崎県林業技術センターと当署で、意見交換会を開きました。

宮崎県からは、センターの概要説明及び近年の取り組みなどについて情報提供があり、国有林からは、低コスト及びシカ対策などの取り組みについて説明を行いました。

会議の最後には、今後も情報共有を密に連携を深め、相互の取り組みについて情報発信し、地域林業の発展のため協力していくことを確認し、意見交換会を終了しました。

また、意見交換会後の懇親会においても、更に連携強化を深めることが出来ました。

意見交換会の様子

私が暮らす大隅半島

津曲 博己 さん

私が暮らす大隅半島は、肝属山地・高隅山地・鰐塚山地の山々と錦江湾・志布志湾の海に囲まれたところにあります。総面積の65％は森林で、桜島・太平洋を望む本土最南端の佐多岬は、宇宙に一番近い内之浦ロケット基地などがあり風光明媚な所です。国有林の原生林などもあり、山々からの豊富な水のお蔭で、地域の農畜産・養殖等の産業が潤っています。

国際貿易港の志布志港には、近隣の山から切出された杉・檜の丸太が港に運ばれ、かつて低迷していた林業は、今や海外に販路を拡大し、丸太輸出量最大規模にまで発展しています。東アジア諸国の経済発展に後押しされ、品質の良い安価な日本材の需要が高まる中、今後は富裕層向けに付加価値の高い木材の需要が増えるのではないかと考えます。

私自身も檜を二十年近く育てていますが、長期的な計画のもと、休日を利用し枝打ちなどで良い汗をかいています。針葉樹は空に向かい真っ直ぐに伸びる性質があり、その姿は大変気持ち良くしてくれます。

全国的には鳥獣被害が問題となっていますが、私の山では冬場になると山芋を求めて盗掘があり、木の根元を深く掘られ根が剥き出しになる被害が出て困っています。

また、全国各地で地震・台風・大雨等による災害が起こっています。昨年の熊本地震では熊本市内に住む子供の安否を心配しましたが、道路事情が悪く断念した記憶が新しいです。その様な事態に備え、日頃から災害時に通行可能な道路の維持整備が必要ではないでしょうか。鹿児島県では昨年の台風の爪痕が残る中、今でも道路の頭上に大きく傾いた杉の立木が見受けられますが、所有者の管理に委ねるだけではなく、出来れば林野庁の主導で各省庁との垣根を越えた減災への取り組みを期待します。

最後に、私自身も微力ながら地域の一員として、消防団活動、国有防風林や地域道路の草刈り作業などに日々参加して、地域の防災と景観に努めています。

（鹿児島県志布志市在住）

農水省の仕事や役割等をPR

しっとっと?国のお仕事～夏休み見学デー～開催

8月2・3日の両日に渡って、熊本地方合同庁舎消費者の部屋において「しっとっと?国のお仕事～夏休み見学デー～」が開かれました。

このイベントは、九州農政局主催により、国や行政機関の仕事や役割などについて、業務の説明や庁内見学、国関係機関の催しなどをとおして、参加した親子に幅広く認識してもらうことを目的としたものです。

九州森林管理局では、一般の方に馴染みの薄い、農林水産省の仕事や役割・取り組みなどについて、より一層の理解を深めて頂きたく積極的に参加しており、当局の他にも、九州地方環境事務所など国関係の14機関が協力依頼を受け参加しました。

真剣にもっくんを作る子供たち

大満足の出来映えです

当局のブースでは、森林・林業に関するパネルの展示や、パンフレット・漫画の配布、のぼりや法被を使った「山の日」のPR、桜の小枝を使ったストラップ「もっくん」作りの木工教室を行いました。

ブースを訪れた子どもたちは、パンフレットや漫画を手に取り熱心に読んだり、木工教室では思いおもいのもっくんを作り、そのできばえに満足げな様子でした。

ブースを訪れた子供たちの中には、去年も参加したという子もいて、毎年このイベントを楽しみにしてくれている様子でした。

また、1日目の午後にはくまモンも登場し、各ブースを回り当局のブースに来たくまモンにもっくんをプレゼントすると、大変気に入った様子で大事そうに抱きかかえていました。

イベントには2日間で637人の方々が訪れ、当局ブースでは約150個のもっくんが作られるなど大変好評で、農林水産省の仕事や役割への理解を一層深めていただけたイベントとなりました。

（担当＝技術普及課）

小学生が自然観察会

【熊本南部森林管理署】 8月1日、昨年に引き続き、水上村の市房山麓に生息する、国内希少野生動植物種である「ゴイシツバメシジミ」の観察会を開きました。

当日は、晴天に恵まれたなか三枝豊平九州大学名誉教授と杉本美華専門員を講師に迎え、水上村及び多良木町の小学生27人を対象に、蝶の生態や保護の重要性などを屋内で学んだ後、場所を屋外に移し、生息地周辺を散策しながら観察会を行いました。

観察会の様子

最初はなかなか現れてくれなかったゴイシツバメシジミも、子供たちの願いが通じたのか、イベント終盤に数頭を見ることができ、子供たちも歓声を上げて喜んでいました。

最後に、今回の自然観察会を契機に、ゴイシツバメシジミ保護の普及・啓発が浸透し、将来にわたり守り育てていければとの挨拶で締めくくり自然観察会を終了しました。

なお、この自然観察会の模様はテレビでも放映され、国有林の活動と地元水上村のPRの一役を担いました。

バーコードで多言語化

【宮崎南部森林管理署】 日本有数の原生的な照葉樹林とやすらぎのセラピーロードとして「日本の美しの森お薦め国有林」に選定されている猪八重の滝風景林ですが、この度観光地域づくりの取り組みの一環として、林内5カ所の案内板（炭がま跡、軌道跡、遊々の森、水タンク跡、イゼキ跡）に英語、中国語（繁体語、簡体語）、韓国語の4種類が二次元バーコードにより読み取れる多言語プレートを取り付けました。

看板とバーコード（下）

日南市では、大型客船就航などにより多くの外国人観光客が訪れており、森林セラピー基地にも認定されている猪八重の滝においても外国人を含め多くの人達が癒やしをもとめて入林しています。

この多言語プレートは、専用アプリを取り入れ、スマートフォンやタブレットをかざすことにより内容を翻訳・表示し音声案内もしてくれる優れものであり、外国人観光客の利便性向上に資することが期待されます。

今後も、日南市、串間市、セラピー協議会などと連携し、国有林の優れた自然景観や森林の効用などを地域の観光資源として活用していただくよう取り組んでいきます。

新任挨拶　よろしくお願いします

平成29年8月1日付の異動により、新しいポストに就かれた、3人の森林管理署長をご紹介します。

熊本南部森林管理署長

工藤　孝
くどう　たかし

年　齢　57歳
出身地　熊本県
前　職　宮崎北部署長
抱　負　宮崎県北の地から熊本南部署へと参りました▼管内は充実した森林資源を背景に、林業・木材産業が盛んな地域です▼五木地域森林共同施業団地を核とした林業の成長産業化の実現や低コスト造林の実証、人材や事業体の育成など、前向きな職員とともに国有林の存在感を示し地域貢献に努めていきますので引き続きよろしくお願いします。

宮崎北部森林管理署長

黒木　慶次郎
くろき　けいじろう

年　齢　55歳
出身地　宮崎県
前　職　企画調整課監査官
抱　負　熊本森林管理署（旧矢部事務所）で勤務以来15年ぶりの森林管理署勤務となり、一抹の不安を感じていますが、今までの経験を活かし初心に返り精進して参りたいと考えています▼これまで諸先輩方が築かれた森林を大切に利活用し、次の世代に引き継ぐことを心がけて各種事業を進めるとともに、林業・木材産業の成長産業化に向けて、少しでも貢献できるよう民国連携した取り組みを一層進め業務を遂行する所存です。

宮崎森林管理署長

飯干　好徳
いいほし　よしのり

年　齢　56歳
出身地　宮崎県
前　職　（研）森林整備センター
　　　　－森林管理部長
抱　負　署内的には情報の共有が円滑に行われ、業務に誇りが持てやりがいを感じる働きやすい職場環境を、署外的には国有林への理解の醸成を深め、国有林の応援団が増えるような業務運営を目指します。

（担当＝総務課）

安全最優先の作業を誓う

【宮崎北部森林管理署】8月4日、国有林関係請負事業体の関係者52人が参加した安全大会が日向市で開かれ、当署からも関係職員が参加しました。

当日は、当署及び延岡労働基準監督署、宮崎県防災救急航空隊から安全関係の講話があり、請負事業体からは、新しい安全対策の取り組みについて発表がありました。

講話の中で、宮崎県防災救急航空隊から、防災ヘリを要請する時の注意事項などについて説明があり、有事の際の防災ヘリ要請に対する知識の向上にもつながりました。

最後に、参加者一人ひとりの安全意識の高揚と、安全な職場環境を継続しつつ「安全最優先」で作業を行うことを全員で誓い安全大会が終了しました。

全員で安全を誓いました

出前講座で環境教育

【宮崎南部森林管理署】地球温暖化問題をはじめとする環境問題に取り組んでいる「エコネットワークにちなん」より講師の派遣依頼があり、8月16日に当署郷原寛美森林技術指導官と高津忠孝総括事務管理官が、森林環境教育の出前講座を行いました。

講座では、宮崎南部森林管理署の概要を説明するとともに、戦中・戦後の拡大造林から最近の主伐・再造林への変遷、森林の現状と課題、森林・林業基本計画の概要、林業の成長産業化への取り組みなど約1時間にわたって講義を行いました。

講義後参加者からは、異常気象による山地災害への取り組みや治山ダムの効果、主伐・再造林の重要性、更には最近マスコミでも話題になっている違法伐採への対応などの質問があり、中身の濃い出前講座となりました。

当署では、今後とも様々な市民の方々との交流を深めながら、山地災害防止や林業の低コスト化への取り組み、森林景観を活かした観光資源の創出など、林業の成長産業化へ向けた各種取り組みを理解していただけるよう、出前講座などを積極的に実施していきます。

森林環境教育について説明

県との意見交換会を開く

【宮崎北部森林管理署】当署では、民国連携の一層の推進を図るべく、民有林行政を行う宮崎県西臼杵支庁林務課と、ユネスコ・エコパーク登録に伴う今後の課題、地域の森林・林業の課題についての情報共有を図るため、意見交換会を開きました。

宮崎県からは、祖母・傾山における情報提供があり、国有林からは、低コストの取り組みについて説明を行いました。

会議の最後には、今後も情報共有を密に連携を深め、地域林業の発展のため協力していくことを確認し、意見交換会を終了しました。

また、意見交換会後には、関係者が参加した懇親会を行い、情報共有及び連携強化への思いを、更に深めることが出来ました。

県との情報共有を図りました

日本製紙と協定を締結

【沖縄森林管理署】当署会議室において、日本製紙株式会社と当署との間で、国民参加の森林づくり（多様な活動の森）の協定を締結し、「イリオモテヤマネコと共存する森」と命名しました。

当日は、日本製紙株式会社より瀬邊明林材部長、川上正智CSR部長をはじめ社員の皆さんが当署を訪れ、調印を行いました。

調印後、瀬邊林材部長から「当社は木材を無駄なく利用する総合バイオマス企業であり、森林資源はその基盤である。今回の協定締結を受け、ささやかではあるが保全活動を通じた森林づくりを確実に行いたい。取り組みには社員が参加し、楽しみながら実施したい。また、地元のNPOの協力も得る考えである」との挨拶がありました。

今回の協定では、イリオモテヤマネコをはじめとする、貴重な野生動植物が生息・生育する西表島において、その環境を守る一助として、西表国有林内の白浜歩道区域において外来種のアメリカハマグルマの駆除及び再生状況確認調査、仲良川区域において外来植物侵入状況調査を行うこととしています。

西表島の環境を守ります

都会の中の憩いの森 監物台樹木園の多様な植物

⑱ シュロ（ヤシ科）

シュロは黄白色の大きな肉穂花序(花)が異彩を放ちます。私が子供の頃は、シュロの皮を剥いで乾燥させて縄を作っていたのを思い出します。

もう蓑（みの）という言葉は死語になってしまいましたが田植えの頃の雨具は、カヤ（ススキ）とシュロで作ったみの（蓑）しかなかったので、農家のみなさんは、雨中の作業に蓑を着て、田植えの準備から田植作業をしていました。

シュロはヤシ科で、異国からの渡来を思わせる植物ですが、れっきとした日本古来の自生種です。現在は人家付近の荒れた里山で目にしますが、これは昔、大事に育てて日用品に使っていた名残です。

夏休みには自分用のハエ叩きを作っていました。手頃な葉を柄から取ってきて、葉の基部から15～20㌢先を切断して、たこ糸で葉を編んで出来上がりです。

花は黄白色の卵の塊状が花でした。細かく観察すると雄花や雌花さらには両生花まで判別できます。

みどりの散歩路

9月1日は「防災の日」でした▼九州では昨年の熊本地震や今年の九州北部豪雨などにより大きな被害を受けたことから、災害時の対策は進んでいるものと思っていましたが、そうでもないようです▼災害時に災害対策本部の機能が失われないよう設置を求められている非常用電源の設置が、九州の22市町村で未設置、また、12の市町村で浸水対策が未整備との結果が出ていました▼ちなみに九州森林管理局庁舎には非常用電源が確保されていて、熊本地震の際には電気の供給が途切れず、非常に助かった事を記憶しています▼地震や豪雨などの自然災害はいつ起こるか分かりません▼非常持ち出し品の準備や避難場所の確認など、個人での災害への備えをこの機会に見直してみるのも良いかもしれません▼業務の中でも災害は起こります▼昨年度は3件の公務災害が発生し、内1件は9月期にその他の業務で発生しています▼今年の9月期は災害を出さないよう、職員全員で安全確保に努め、災害ゼロを達成しましょう▼9月期は「ゼロ災月間」です。（や）